

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	有限会社 サラサホーム(2階ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5		
自己評価作成日	平成22年2月12日	評価結果市町村受理日	平成22年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171500313&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員のペースではなく、利用者の方一人ひとりの生活を第一に考え、日々楽しく暮らせる支援を優先していること。但し、朝・昼・夕の食事・お茶の時間は、全員揃ってレクリエーションや会話などに参加して頂く方針であるが、本人が気の乗らないときは無理には参加して頂かない。
 利用者の要望・相談事には、気持ち良く耳を傾け、本人が納得して満足して頂けるような言葉かけを行ない、家族同様に楽しく暮らせていることです。2階ユニットは、全体に狭く居室からの見晴らしは良いが、特徴としては写真を見ながら廊下を歩行したり日々楽しんで頂いており、3階ユニットは見晴らしも良く居室・居間食堂は広く日当たりも良くゆったりとした空間の中で過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年に開設し8年目、積み上げてきた実践や経験を活かし介護実習生や介護体験者を受け入れたり、中学校からの要請を受け管理者が講演に出向く等、認知症及び認知症ケアの啓発に努めている。運営推進会議を、地域や行政・利用者・家族・事業所と連携し、サービスの質の向上へつなげる機会と考え、管理者が市役所へ行き案内状を直接手渡す等、積極的に働きかけることにより、日曜日開催の協力を得、町内会長、区長、消防団、民生委員、主治医、行政、家族等多方面からの参加があり、2ヶ月に1度(今年度は7回)開催している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2階ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、常に理念を共有し実践に取り組んでいる。	新任職員は「新任研修」の中で理念について等学習し、更にミーティング時に振り返り、確認、共有し、日々のケアに活かしながら実践に努めている。	管理者は、更に地域に密着したグループホームを目指しており、開設時からの理念を現状に合わせたものに皆で作りに上げていきたいという思いがあり、実現が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達とは、運営推進会議の中から施設見学・防災訓練・認知症予防リハビリ・介護体験実習等の参加をして頂いたり良い関係で交流が来ている。	利用者の暮らしぶりを「サラサ便り」に紹介し、地域に回覧し、つながりを深めている。運営推進会議を通じ地域や行政の協力を得ると共に、ホームの行事に招待する等、地域に根ざした交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達に、認知症の理解を深めて頂く為と介護方法を学ぶ為の体験実習の場として、ホームに来て頂いたり交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事をサラサ便りにて委員の方々に報告を行ない、今後の意見等も活発に出して頂き、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1度日曜日に開催し、区長や民生委員、主治医、行政、家族等多方面からの参加を得ている。外部評価結果についての意見交換も行われ、運営に反映し、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議等、サービスの取り組みや意見交換を行なっている。また、相談員の方に訪問して頂き、ケアサービスの向上に取り組んでいる。	管理者は地域包括支援センター主催の研修会に参加したり、運営推進会議の案内状を手渡しに出向いて情報を得たり、ホームの現状について理解や協力を得るための関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して、常にミーティングや職員アンケート等で勉強会を行ない、理解を深めていく取り組みを行なっている。	職員は、目に見えない拘束や拘束による弊害、拘束をしないケアの大切さ等について学びあい、確認しながら日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束や虐待に対しては、職員に学ぶ機会を持たせ、ホーム内での虐待は常に見守り防止に努めている。		

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、ホーム内で地域の方・ご家族様と共に後見センターから来て頂き、制度について学ぶ機会を持ち、必要な方には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に施設見学を行なって頂く取り組みをしている。また、入所時には十分な説明を行ない、納得して頂いた上で契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートなど行ない、意見・要望など取り入れ、それらを運営に反映させ、向上できる取り組みをしている。	運営推進会議、家族会、面会時、日常生活の中での関わりの中等で、気楽に話せる環境作りに努めており、「行事への参加が難しい」「外出させて欲しい」等の意見を真摯に受け止め、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と意見交換の機会を持ち反映させている。	経営者や管理者は、利用者が今何をしたいのかを最もよく知っている職員一人ひとりの気づきや提案を聴き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・ボーナスもあり、勤務状況の把握をし、働き甲斐のある職場として各自向上心を持って働けていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、一人ひとりの勤務状況の把握をしており、内外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、管理者のみ行なっていたが、今後は、グループホーム職員参加の研修の場を設け、交流できる体制を作る取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に、ご家族様利用者本人と面談しており、入所と同時に本人の安心確保のための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安な事は、見学と面談で理解出来ている為、サービスを導入する段階でも要望等聞き取りながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族様の求められている事、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護だけを対象とせず、一緒に暮らす者同士として時には学ばせてもらったりと良い関係作りが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は介護するのみではなく、本人とご家族様の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場との関係は、家族の方に行なって頂いているが、なじみの人との関係は途切れることが無いように支援を行なっている。	ホームでの介護体験実習者から利用者の暮らしぶりや交流の楽しさが地域にも伝わり、地域の人が繰り返し訪れるようになり、馴染みの関係が構築されている。家族と共に墓参りに行くことや、孫の面会を楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係・交流の場は大変に微笑ましく関わりを大切に支え合えるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者全員ではないが、サービス利用が終了しても、必要に応じて相談を受けたり交流は保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望・意向の把握は、日々の会話の中から感じ取れ、本人が満足して暮らせる支援に努めている。	入浴介助中、背中洗い方への希望を聴く等、日常の関わりの中から利用者の思いや希望を把握することが多い。職員は利用者の家族から離れて暮らす淋しい思いを充分酌み、その思いに寄り添いながら、ホームでの暮らしを喜んでもらえるケアに努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の日々の暮らしぶりの中から、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしぶりの中から、一日の過ごし方・心身状態・有する力等現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・家族等必要な関係者と話し合い、意見を反映し、介護計画を作成している。	利用者や家族から把握した思いや希望、職員の気づき等を基に、利用者一人ひとりの介護目標、ケアのポイント、注意点等を担当者会議で検討している。また、変化に応じた見直しを重ね、利用者の現状にあった真のニーズに即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や職員間で情報を共有しながら見直し等行ない、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活・家族の状況等、ニーズに対応して必要とされている支援の実践に取り組んでいる。		

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見や季節の変化が感じ取れるように、日々の暮らしが楽しめるよう、支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が継続している医療関係は断ち切られないよう支援を行ない、適切な医療が受けられるよう支援している。	定員18名中5名は家族や利用者の希望により、入居前からのかかりつけ医との関係を継続しており、基本的に家族による受診同行となっているが、状態に応じて管理者が同行し、医師から直接情報を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の往診を受け、主治医に相談しながら受診が受けられるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、安心して治療が出来、早期に退院出来るよう病院関係者との情報の交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してしまう前から、終末期のあり方について家族と相談をしてホームで出来ることを十分に説明し方針を共有出来るように努めている。	事業所としての重度化へのマニュアル・指針があり、急変時には市民病院へ救急車で搬送し、その際の同行支援は管理者が対応している。	看取り等については、避けては通れない課題と認識はしているが、具体的な取り組みには至っていない。事業所や職員の力量や体制、環境等を考えながら全職員で検討し、看取り等について具体的な実践に向けた取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に3回応急手当講習会を行ない、急変や事故に対して職員間で理解できる取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行ない、年1回の職員防災教育を実施している。地域との協力関係も出来ている。	運営推進会議を通し、地域の防災訓練に協力し、ホームを避難場所として提供している。また、地域の協力を得、夜間や地震等を想定した訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛け、日々接している。	一人ひとりの利用者がその人らしく安心して過ごせるよう、プライバシーに関しても学習し、尊厳を無視することのない介護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本意でなく一人ひとりの希望や自己決定の支援を行なっている。本人が日々楽しく暮らせる支援を行なっていく方針で取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活は参加して頂いているが、自由に自室でパズル・ドリル・日記記入・テレビ等楽しめる時間も大切にしたいと望んで実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で選べる方には自分で選んで頂き、理解できない人に対してはその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。髪の毛のカットも相談に応じて行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の出来る人には食事の準備の手伝いをして頂き、食後の片付けはほとんどの方が一緒に行なって下さる。	利用者と職員が共に食事の準備をし、同じ物を同じテーブルで食べ、共に片付けも行っている。それらのことが日常生活の中で喜びや張り合いになっているのか、利用者の表情が明るく、食欲もあり、感謝し、味わいながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス・水分摂取量が確保出来るように支援している。一人ひとりの身体の状態に合わせた食事量を心掛けている。食事にも彩りよく工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕、食後に歯磨き支援を行ない、週に1回のポリドントを行ない、清潔の保持を保っている。		

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方が多くトイレ介助を有する利用者の方が少なかったが、2, 3ヶ月前頃からリハパン使用を望まれる利用者が多くなったが、排泄はトイレでされている。	一人ひとりの利用者の生活リズム、排泄パターンに添いながら、さり気ない誘導が行われている。特に羞恥心への配慮を意識し、トイレでの自立した排泄に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給と軽体操・食事等で便秘予防は行なっている。必要に応じて薬を服用される時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を取り入れながら週に3回入浴を楽しんで頂いている。入浴時間は平日の午後を決め、ゆっくりを入浴して頂いている。	柚子や入浴剤で季節感や色合いを楽しみ、一人ひとりの体調や希望に合わせて職員との会話を楽しみながら、寛いだ気分で入浴出来る様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて休息して頂いている。安心して気持ちよく安眠出来る支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は間違えれば毒にもなる。職員は理解して支援しているが症状の変化等の確認は怠らず、支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ事、詩吟・パズル・計算ドリル・歌・軽体操等の気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は積極的に行なっていたが、21年度は新型インフルエンザ流行のため、外出が出来なかった。家族と共に出掛けて頂いていた。地域の方やボランティアの方に来所して頂いている。	今年度の目標に「外出を増やす事」掲げている。利用者や家族の希望により、寒い日でもお茶などを楽しみながら外気浴の出来る場がホームの敷地内に設置され喜ばれている。手作り弁当を持って花見等に出掛けた思い出の写真も各所に掲示されているが、家族から「外へ連れ出して欲しい」との希望が多い。	今年度の目標に「外出を増やす事」掲げているので、家族には、買い物、喫茶店や神社へ散歩を兼ねて出かけている事等、実践した外出情報をきめ細かに発信し、家族とのコミュニケーションを図りたい。

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により自分でお金を持っている方が3名ほどいるが、基本的にはホームで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・親類に電話をしたいとの申出がある場合は自由に掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂・廊下の長いす等で利用者同士が会話を楽しまれている姿は大変に微笑ましい。花などを飾り季節感を取り入れて居心地良く過ごして頂ける工夫をしている。	リビングや廊下には、一人ひとりのペースで寛げる椅子やソファが設置されている。写真等の掲示物も手作りで工夫し、温もりが感じられる。自然換気や清掃もいき届き、居心地の良い空間作りへの取り組みがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に気の合った人を招いたり、訪れたり、利用者同士で会話をされたり自由に日々過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真などを飾り、利用者本人が落ち着いて過ごせる居心地の良い居室だと思っている。	生活感のある部屋、落ち着いて過ごせる部屋、趣味の植物栽培を楽しめる部屋等、利用者一人ひとりに合った居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物品を置かないよう配慮し、安全な環境作りに努めている。一人で出来ること出来ないことの把握をし自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	有限会社 サラサホーム(3階ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5		
自己評価作成日	平成22年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(3階ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との密着サービスを行なう事業所理念の下、管理者と職員は日々話し合い理念を共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練・お祭りなどで地域の方と交流し、ホームの様子を見て頂き、日常的な交流が出来るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの生活を体験実習や行事に参加することで知って頂き、地域の方に理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行なっている会議で出された意見をミーティングで報告しサービスの改善に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉相談員さんに訪問して頂き、利用者さんの声を聴きサービスの向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス時や資料などで勉強をし、理解をし、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンス・ミーティング時に学んだり研修に参加し学ぶ機会を持ち、注意をし防止に努めている。		

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の講習会をホームで行なって頂いたり資料で学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の方の不安や疑問点には、説明を行ない理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、家族の方にも出席して頂き要望を聞いたり、意見を表せる機会を設けて運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時には管理者も同席し、職員の意見を聞く機会を設けている。管理者が代表者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう代表者と管理者、職員と意見を共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修を受ける機会を確保し、個々にも研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、管理者のみだったが今後はグループホーム職員参加の研修の場を設け、交流できる体制を作る取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の希望・要望を聴く機会を作っており、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに要望に耳を傾け、話をして関係づくりに努めている。電話でも受け付け、話す機会がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には管理者が対応し職員と連携を図り、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として会話をしたり一緒に過ごす中で関係を築けるように図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と面会時には話をしたり、電話や行事への参加時など通し、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会を受け入れたり電話での連絡を取り合ったり、手紙を出したり途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションで皆が関われる機会を作ったり食堂で皆が会話をし合える場を提供し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者に職員が面会に行ったり、家族の方から手紙やはがきも届いて交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中から本人の状態・様子・言葉から意向の把握をし、サービスの向上に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方にお話を聞いたり、また、本人の関わりの中で把握しケアに取り組めるよう図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活動作を日々観察しながら出来ていることに注目しサービスの提供に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向・家族の要望を踏まえた上で意見を反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケア日誌に個別に記入し職員間では引継ぎ時に連絡ノート、毎月のカンファレンス時に情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握しその時々生まれるニーズに対応し個々に沿った支援やサービスに取り組んでいる。		

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見へ出掛けたり近所で買い物をしたりして地域資源も活用しながら豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月往診時に個々の利用者の状態を伝え、相談しながら連携を図り適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時薬の処方等に個々の利用者の状態を伝え適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には医師との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方について管理者を交えて家族の方と話し合い説明を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・消防訓練を定期的に行ない職員は参加をして実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練・避難訓練共に定期的に行ない、全職員が方法を身に付け地域の方にも参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けて日々接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本意ではなく、一人ひとりの生活に合わせた支援が出来るよう働きかけ利用者の気持ちを優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが手芸・テレビ鑑賞・仮眠など状況や要望に応じて生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり頭髪を染めたりカットをしたりして身だしなみの支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方と一緒に食事の準備をしたり片づけを行ない好みの把握をし、食事の提供をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日時間と食事量・水分量は個人記録に付け状態に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕と毎日口腔ケアを実施している。週に一度ポリドントにつけ消毒を行なっている。		

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握しトイレでの排泄が出来るよう支援している。毎日チェック表に記録をし必要に応じて誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・軽体操・歩行訓練・食事にも注意し予防に取り組んでいる。必要に応じて薬の服用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を取り入れながら週に2, 3回午後に入浴を行ない状況・体調を見て入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な時間に休息して頂いている。生活習慣に応じて眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法について薬の内訳表を作り理解できるようにしている。服用時には必ず服用したか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせて、歌・ぬり絵・編み物・ドリル・リハビリ体操など行なってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・花見など戸外に出掛けられるよう支援している。付き添いの元、買い物へ出掛けるときもある。家族の人にも協力をして頂き外出することもある。		

岐阜県 サラサホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を希望される利用者には力に応じてお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望されたときは対応し手紙やはがきは希望される時には出して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行ないチェック表にて明確にしている。日中はカーテンを開けて光を取り入れ花も飾り季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所として個々の居室が確保されている。食堂・和室では利用者が共用できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家よりなじみの布団や家具衣類を持参されて、使用されている。写真を飾ったり居心地良く過ごせる場所を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物を置かないよう環境づくりを行ない、個人の私物ではさみ等は預かり必要に応じ見守りの元使用して頂いている。		